

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大阪府立大学
設置者名	公立大学法人大阪

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
現代システム科学域	知識情報システム学類		14	0	22	36	13	
	環境システム学類 環境共生科学課程		14	0	8	22	13	
	環境システム学類 社会共生科学課程		14	0	8	22	13	
	環境システム学類 人間環境科学課程		14	0	18	32	13	
	マネジメント学類 マネジメント課程		14	0	10	24	13	
	マネジメント学類 経済データサイエンス課程		14	0	4	18	13	
工学域	電気電子系学類 情報工学課程		14	2	8	24	13	
	電気電子系学類 電気電子システム工学課程		14	2	16	32	13	
	電気電子系学類 数理システム課程		14	2	6	22	13	
	電気電子系学類 電子物理工学課程		14	2	8	24	13	
	物質化学系学類 応用化学課程		14	2	6	22	13	
	物質化学系学類 化学工学課程		14	2	8	24	13	
	物質化学系学類 マテリアル工学課程		14	2	10	26	13	
	機械系学類 航空宇宙工学課程		14	2	16	32	13	
	機械系学類 海洋システム工学課程		14	2	6	22	13	
機械系学類 機械工学課程		14	2	8	24	13		

生命環境科学域	獣医学類		14	0	61	75	19	
	応用生命科学類 生命機能化学課程		14	0	34	48	13	
	応用生命科学類 植物バイオサイエンス課程		14	0	6	20	13	
	緑地環境科学類		14	0	8	22	13	
	理学類 数理科学課程		14	2	4	20	13	
	理学類 物理科学課程		14	2	22	38	13	
	理学類 分子科学課程		14	2	36	52	13	
	理学類 生物科学課程		14	2	14	30	13	
	自然科学類 物理科学課程		14	2	22	38	13	
	自然科学類 分子科学課程		14	2	36	52	13	
	自然科学類 生物科学課程		14	2	14	30	13	
地域保健学域	看護学類		14	0	8	22	13	
	総合リハビリテーション学類 理学療法学専攻		14	0	4	18	13	
	総合リハビリテーション学類 作業療法学専攻		14	0	3	17	13	
	総合リハビリテーション学類 栄養療法学専攻		14	0	4	18	13	
	教育福祉学類		14	0	34	48	13	
(備考) 電気電子系学類数理システム課程、自然科学類の3課程は学生募集停止								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

- WEBサイトで公表
https://www.osakafu-u.ac.jp/campus_life/course/study/syllabus/
- シラバス情報「備考（実務経験の活用を含む）」欄にて、授業担当者の実務経験を活用した授業であることを明記

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪府立大学
設置者名	公立大学法人大阪

1. 理事（役員）名簿の公表方法

WEBサイトで公表 https://www.upc-osaka.ac.jp/about/directors/
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	(前職) 大阪府 教育長	2021年4月～ 2023年3月	総務、財務、 企画調整担当
常勤	(前職) 大阪市 財政局長	2021年4月～ 2023年3月	人事、経営戦略、 施設整備担当
常勤	(前職) 公立大学法人大阪府立大学 理事長・学長	2021年4月～ 2022年3月	社会・学学連携、 情報、高専担当
常勤	(前職) 国立大学法人三重大学 財務部長	2021年4月～ 2023年3月	新大学設置 準備担当
非常勤	(現職) 社会医療法人弘道会 理事、特別顧問	2021年4月～ 2023年3月	特命事項担当
非常勤	(現職) 小野薬品工業株式会社 代表取締役社長	2021年4月～ 2023年3月	渉外担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪府立大学
設置者名	公立大学法人大阪

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) シラバスでは、授業名、担当教員名、授業の目的・到達目標、各回の授業内容、成績評価方法、成績評価基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等の情報を示し、WEB サイトを通じて公開している。シラバスの入力・公開率は毎年 100%を維持している。</p>	
授業計画書の公表方法	http://www0.osakafu-u.ac.jp/syllabus/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学士課程においてGPA制度を導入するとともに、各授業科目の成績評価に当たっては、その客観性・厳格性を担保するため、各学域等において「成績評価ガイドライン」を策定している。ガイドラインでは、成績評価基準等の明示や成績分布の目安等を示し、さらに、多角的な評価方法を推奨することによって、適切な成績評価が行われるよう工夫をしている。 各授業科目単位では、成績評価基準及び成績評価方法についてシラバスに明記し、WEB サイトを通じて公表するとともに、授業の初回において学生に周知を図っている。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学士課程においてGPA制度を導入しており、その算出方法は、下記のWEBサイトで公表している。成績分布等の把握については、各授業のGP分布やGPC (Grade Point Class Average) のデータをもとに、成績評価等が適切に行われているかを確認している。また、本学の学生・教員も、それぞれが利用するポートフォリオシステムにおいて、教員は担当する授業のGP分布やGPCを確認することができ、学生は、自身の成績だけでなく、受講する各授業のGP分布や、自身の各期のGPA及び累積のGPA、修得単位数の推移等の情報をいつでも確認することができるなど、システムを活用して成績情報を可視化している。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.osakafu-u.ac.jp/campus_life/course/score/
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学則及び各学域規程において、規定する年限以上在学し、かつ、所定の教育課程を履修し、卒業に必要な単位を修得することを卒業要件とする卒業認定基準が定められている。また、学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー) とともに、履修要項及びWEBサイトを通じて学生に周知を図っている。卒業の認定については、教務学生システムで一元管理されたデータから作成された卒業判定資料をもとに、教授会の議を経て学長が行っている。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	http://www.osakafu-u.ac.jp/info/education/ http://www.osakafu-u.ac.jp/info/education/regulation/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大阪府立大学
設置者名	公立大学法人大阪

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.upc-osaka.ac.jp/info/upco_info/financial/ (2019～) https://www.upc-osaka.ac.jp/info/upco_info/financial/former/financial_opu/ (~2018)
収支計算書 又は損益計 算書	https://www.upc-osaka.ac.jp/info/upco_info/financial/ (2019～) https://www.upc-osaka.ac.jp/info/upco_info/financial/former/financial_opu/ (~2018)
財産目録	
事業報告書	https://www.upc-osaka.ac.jp/info/upco_info/financial/ (2019～) https://www.upc-osaka.ac.jp/info/upco_info/financial/former/financial_opu/ (~2018)
監事による 監査報告 (書)	https://www.upc-osaka.ac.jp/info/upco_info/financial/ (2019～) https://www.upc-osaka.ac.jp/info/upco_info/financial/former/financial_opu/ (~2018)

2. 事業計画 (任意記載事項)

単年度計画 (名称 : _____ 対象年度 : _____)
公表方法 :
中長期計画 (名称 : _____ 対象年度 : _____)
公表方法 :

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法 : WEB サイトで公表 (直近は 2019 年度に実施) https://www.osakafu-u.ac.jp/info/evaluation/self_report/

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法 :

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 現代システム科学域
<p>教育研究上の目的</p> <p>(http://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/csss/outline/policy/)</p> <p>(概要)</p> <p>自然科学、社会科学、人間科学の基本的知識に基づいて現象を多様な要素の相互作用としてとらえるシステムの思考力と、複数の領域の知識を横断的に用いて実社会における問題を特定・分析・解決する領域横断的応用力を備え、卒業後も自律的に考え、学び、成長することができ、高い倫理観をもって持続可能な社会の実現に貢献する人材を育成します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(http://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/csss/outline/policy/)</p> <p>(概要)</p> <p>所定の期間在学して各学類が定める単位を取得し、以下のような学生に学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 共通教育科目（導入科目、基盤科目、教養科目）の履修を通して、幅広い教養と多面的な視野、外国語によるコミュニケーション能力を備えている。 2. 専門基礎科目・専門科目（学域共通科目、学類専門科目、他学類専門科目）の体系的な履修を通して、専門的・学際的な知識を備えている。 3. 演習科目等における討議や発表、卒業論文の作成を通して、自主的に学び、問題を解決し、自らの考えを論理的に表現する力を備えている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(http://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/csss/outline/policy/)</p> <p>(概要)</p> <p>現象を多様な要素の相互作用としてとらえるシステムの思考力、複数の領域の知識を横断的に用いて実社会における問題を特定・分析・解決する領域横断的応用力を養うために、以下のようなカリキュラムを提供する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論理的思考力や文章による表現力など大学での学びの基礎となる力を養うために、導入科目（初年次ゼミ）を配置する。 2. 幅広い教養、多面的な視野、外国語によるコミュニケーション能力を養うために、教養科目および基盤科目（情報基礎科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目）を配置する。 3. 知識情報システム学類、環境システム学類、マネジメント学類のそれぞれで必要となる基礎的な知識を修得させるため、専門基礎科目を配置する。 4. 持続可能な社会の実現に貢献する人材の育成という本学域の理念に基づき、持続可能性に関する基本的知識を身に付けさせるために、学域共通科目を配置する。 5. 知識情報システム学類、環境システム学類、マネジメント学類のそれぞれにおける専門的知識・技能を修得させるために、学類専門科目を体系的に配置する。 6. 複数の分野の知識を組み合わせる力を養うために、所属学類以外の基礎的な専門科目を履修させる「他学類専門科目」を配置する。 7. 自ら課題を発見して取り組む継続的学習能力、グループで協議して問題解決を進める能力を養うために、少人数の演習科目を配置する。
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(http://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/csss/outline/policy/)</p> <p>(概要)</p> <p>グローバル化の進行によって社会の変化が加速し、技術革新がもたらす影響範囲も拡大した現代においては、複数の分野の専門的知識を効果的に組み合わせるシステムの思考力が必要とされています。現代システム科学域は、情報、環境、マネジメントの3つの領域の基礎を学ぶことにより領域横断的な思考法、発想法を養います。さらに、それを基礎と</p>

<p>してひとつの専門領域について深く学ぶことにより、従来の枠組みにとらわれず、様々な学問領域の成果を組み合わせ問題解決を図る能力を育てます。</p> <p>したがって、現代システム科学域では次のような学生を求めています</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報、環境、マネジメントのいずれかまたは複数に対する関心があり、それらについて学ぶための基礎的知識をもっている人 2. 論理的な思考力と自ら学ぶ探求心を備え、勉学意欲に溢れる人 3. 国際的視野をもって地域社会や国際社会に貢献することをめざす人 4. 高い倫理観をもって問題解決に取り組む意欲をもっている人 <p>以上に基づき、次の1~5の能力や適性を身につけた学生を選抜します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校における教科・科目を文理ともに広く学習し、高い基礎学力を有していること 2. 英文を読んで理解するための基礎的な能力を身につけていること 3. データを取り扱うための基礎的な数学的素養を学んでいること 4. 論理的な思考力を備えていること 5. 他者を理解し、主体的に学習に取り組むことができること
--

<p>学部等名 工学域</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(http://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/ce/outline/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>科学と技術の融合領域である工学において、真理の探究と知の創造を重視し、自然環境と調和する科学技術の発展を図り、持続可能な社会の発展と文化の創造に貢献することをその基本の理念とします。この理念のもとで教育を実践し、幅広い総合的知識および工学分野の専門知識に基づいて問題を認識し、評価し、解決する基本的な能力を培い、創造性と個性を伸ばし、豊かな教養、高い倫理観と専門能力を兼ね備えた人材を育成します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(http://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/ce/outline/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>真理の探究と知の創造を重視し、自然環境と調和する科学技術の発展を図り、持続可能な社会の発展と文化の創造に貢献することをその基本の理念とする。この理念のもとで教育を実践し、幅広い総合的知識および工学分野の専門知識に基づいて問題を認識し、評価し、解決する基本的な能力を培い、創造性と個性を伸ばし、豊かな教養、高い倫理観と専門能力を修得した者に学位を授与する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(http://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/ce/outline/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大阪府立大学学士課程が目指す学修成果」の達成を目的として、教育課程編成を行う。 ・工学の基礎に根ざした学問の系統性と順次性を尊重し、共通教育科目、専門基礎科目および専門科目（学域共通科目、学類共通科目、課程専門科目）により構成される整合性・一貫性を持つ体系化された教育課程を編成する。 ・学類内の課程への所属は経過選択型とし、柔軟で自由度の高い進路選択を可能にする。特に学域共通科目と学類共通科目を適切に配置し、転学類・転課程が可能になるようなカリキュラム編成により、幅広い学修と柔軟な進路変更を可能とする。 ・共通教育科目の履修により、教養豊かな人間性と幅広い学修成果を獲得させる。専門基礎科目の履修により、工学を学ぶために必要な自然科学全般についての基盤的知識を修得させる。専門科目の中でも、特に学類全体で必要とされる科目を学類共通科目に指定する。同様に学類を問わず幅広く必要とされる科目を学域共通科目に指定する。 ・基礎学力を重視するために専門基礎科目を履修させ、専門科目の基礎となる数学や自然科学を学修することにより、生涯に渡る学びの基礎を築かせる。 ・1年次では、幅広い学修を保証し、豊かな教養を涵養するために必要な共通教育科目を中心に配当し、2年次では、初年次で得られた基礎的で幅広い学修成果を3年次以降の

<p>専門科目履修に繋げることを目的に、専門基礎科目と各課程の基礎的な専門科目を中心に配当し、3年次以降では、課程専門科目を中心に配当し、講義・実験・実習・演習などを通して、専門分野に関する問題解決に応用できる能力を育成する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (http://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/ce/outline/policy/)</p>
<p>(概要) 工学域は、かつての自由都市堺に立地し、その伝統的気風、すなわち「自由と進取の気風、新しい文化と産業の創造、世界雄飛」をモットーに、真理の探究と知の創造を重視し、自然環境と調和する科学技術の進展を図り、持続可能な社会の発展と文化の創造に貢献することをめざしています。このために、人と社会と自然に対する広い視野と深い知識をもち、豊かな人間性と高い倫理観および専門能力を兼ね備え、工学における重要な課題を主体的に認識して問題の解決に努め、社会の発展、福祉の向上および文化の創造に貢献できる技術者・研究者を育てることを目標にしています。 したがって、工学域では、学問を深く継続して学ぶ意欲に富み、人や自然を愛し、人類の持続可能な発展と世界平和に関わる未知の問題に果敢に立ち向かい、地球環境を守るという気概をもつ、次のような学生を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 工学を学ぶことに対する目的意識を明確にもち、社会の発展に貢献する意欲をもっている人 2. 自由闊達で何事にも興味をもち、主体的、積極的に学び自ら新たな課題を見つけ研究をしていこうとする人 3. 工学的諸問題への強い関心と、問題解決への目標意識をもっている人 <p>以上のような、工学域の教育理念・目的にふさわしい次の1～4の能力や適性を身につけた学生を選抜します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校における教科・科目を広く学習し、高い基礎学力を有していること 2. 工学における諸課題に取り組むための基礎的な数学の素養、物理学の素養および化学の素養を身につけていること 3. 英文を読んで理解し、書いて表現するための基礎的な能力を身につけていること 4. 論理的に考える素養を身につけていること

<p>学部等名 生命環境科学域</p>
<p>教育研究上の目的 (http://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/ceas/outline/policy/)</p>
<p>(概要) 生物の機能と生命現象の解明、自然環境、自然現象の理解と、それらの調和と持続的な利用のための基礎から応用までの広範な科学的知識と技術を修得するとともに、豊かな教養と問題解決能力、高い倫理観と創造力を身につけ、社会の多方面で貢献できる人材を育成します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (http://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/ceas/outline/policy/)</p>
<p>(概要) 獣医学、応用生命科学、緑地環境科学、ならびにこれらの基盤となる自然科学分野に関する教育研究を行い、教育目標に示す能力を修得したものに学位を授与する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (http://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/ceas/outline/policy/)</p>
<p>(概要) ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるため、以下の教育課程を提供する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高い教養を備え、科学技術に携わる者の責任感と倫理観を身に付け、国際社会で活躍する能力を養うために、共通教育科目として導入科目、教養科目、基盤科目を設ける。 2. 基礎科学の知識を広く修得し、それらを応用する基盤となる能力を養うために、専門基礎科目（理系基礎科目）を配置する。

<p>3. 各学術領域の専門知識と技術、ならびに問題解決能力とコミュニケーション能力を養うために、各学類・課程の専門科目として講義、演習、実験・実習科目を体系的に配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (http://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/cleas/outline/policy/)</p>
<p>(概要) 食料やエネルギーなどの多様な資源を利用し、人間生活に必要な有用物質を生産し活用するためには、また、人間が良好な環境で生活できる社会を持続的に発展させるためには、環境と調和した社会活動に貢献できる人材が求められています。生命環境科学域は、生物の多様な生命現象や生命機能の解明とその利用をめざしたバイオサイエンス・バイオテクノロジー、持続可能な生命環境の保全と創成、それらの基盤となり、さらに広範な自然現象の理解と応用をめざす自然科学についての専門的知識や技術とともに、豊かな教養と問題解決能力、高い倫理観と創造力を身につけ、産業・社会の発展と学術の進歩に貢献できる人材の育成をめざしています。</p> <p>したがって、生命環境科学域は次のような学生を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命現象・機能とその環境についての科学と自然科学を学ぶことに対する明確な目的意識をもち、社会の持続的発展に貢献する意欲をもっている人 2. 幅広い興味をもち、自ら進んで学ぶ探究心をもっている人 <p>上記のアドミッション・ポリシーにしたがい、次の1～3の能力や適性をもつ学生を選抜します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入学共通テストで課している科目の内容を十分に身につけていること 2. 物理、化学、生物だけでなく、データ解析などに必要な数学の基礎学力を身につけていること 3. 学術雑誌の内容の理解、レポート作成、研究内容の発表のための英語や国語の基礎学力を身につけていること

<p>学部等名 地域保健学域</p>
<p>教育研究上の目的 (http://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/chhs/outline/policy/)</p>
<p>(概要) 生命の尊さと人の尊厳を重んじ、豊かな人間性と深い教養を備え、人と社会に対する包括的視野と、人を支援する専門的かつ協働的な実践力を身に付け、地域社会および国際社会において人々の健康と福祉の向上に寄与する人材を育成します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (http://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/chhs/outline/policy/)</p>
<p>(概要) 生命の尊さと人の尊厳を重んじ、豊かな人間性と深い教養を備え、人と社会に対する包括的視野と、人を支援する専門的かつ協働的な実践力を身に付け、地域社会および国際社会において人々の健康と福祉の向上に寄与する能力を修得した者に学位を授与する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (http://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/chhs/outline/policy/)</p>
<p>(概要) 共通教育科目、専門基礎科目および専門科目で構成し、専門科目において特に学域共通のコアとなる学域共通科目の区分を設ける。</p> <p>初年次から配当する共通教育科目については、学士課程教育の全学的な方針を尊重し、大学生として自ら学ぶ姿勢を身に付け、幅広い教養と社会人としての基礎力を高めるため、一般的な教養科目に加え、少人数ゼミナールや外国語科目、教養展開科目などを必修指定して積極的に学修できるように配慮する。</p> <p>共通教育科目と専門科目とのスムーズな接続に配慮しつつ、専門基礎科目とともに学域の理念を具体化する学域共通のコア科目群を設置する。すなわち「学域共通科目」として</p>

「生命倫理学」「人間支援科学」「コラボレーション論」「コミュニケーション論」「ケアリング論」の5科目(3科目以上を必修)を設置し、看護学類、総合リハビリテーション学類、教育福祉学類の3学類の学生たちが人間を支援するために必要な倫理や基本的な知見について共に学び、協働的な実践を行うための共通の基盤を形成する。

そのうえで学類ごとの専門科目の設置についても、次の点については学域で一致した配慮を行う。

- ・少人数による授業を基本としたきめ細かな教育の実施
 - ・主体的な学習への関心と方法を身につけるための実践的・臨床的な体験を含む演習・実習科目の初年次からの配置
 - ・学外実習施設との密接な連携による、教育と実践の効果的な学習体制の充実
 - ・実践的なチーム医療や福祉・教育とのコラボレーションが可能になるような教育の実施
- なお、さらに自由選択枠を設け、多様な関連分野への主体的な関心に基づき、学類の専門科目の枠を超えた科目選択を可能とする。

入学者の受入れに関する方針

(<http://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/chhs/outline/policy/>)

(概要)

人は地域社会において、健康で文化的な生活を営むためには、身体的、精神的、社会的に良好な状態で生活できることが大切です。ライフステージで生じる子育て、教育、医療、介護などの問題は複雑で多様化しています。保健・医療・福祉・教育などのヒューマンサービスの分野で、生命の尊さと人の尊厳を重んじ、豊かな人間性と深い教養を備えた人材を育成する必要があります。地域保健学域は、人と社会に対する包括的視野と、人を支援する専門的かつ協働的な実践力を身につけ、地域社会および国際社会において人々の健康と福祉の向上に寄与する人材を育成します。

したがって、地域保健学域では次のような学生を求めています。

1. 保健・医療・福祉・教育の分野で人々に貢献することをめざす人
 2. 人々の喜び、悲しみ、痛みを分かち合え、人の主張と気持ちを受けとめる寛大な心と包容力をもった人
 3. 学問の向上に興味をもち、探究心旺盛な人
 4. 人々と連携し、問題を解決する意欲と能力をもった人
- 以上に基づき、次の1~3の能力や適性を身につけた学生を選抜します。
1. 高等学校における教科・科目を文理とも広く学習し、高い基礎学力を有していること
 2. 対人支援のコミュニケーションのための基礎となる語学力(国語・英語)を有していること
 3. 論理的な思考能力を有していること

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.osakafu-u.ac.jp/info/outline/org/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	6人	—					6人
現代システム科学域	—	46人	39人	1人	2人	0人	88人
工学域		70人	72人	10人	23人	0人	175人
生命環境科学域		71人	78人	19人	25人	0人	193人
地域保健学域		44人	31人	20人	8人	0人	103人
その他		35人	37人	4人	4人	0人	80人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		480人					481人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： http://kyoindb.osakafu-u.ac.jp/search?m=home&l=ja					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
全学的なFD活動は、高等教育開発センターを中心に実施している。 https://www.fd-center.osakafu-u.ac.jp/							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
現代システム 科学域	320人	326人	101.9%	1,280人	1,387人	108.4%	-人	-人
工学域	455人	471人	103.5%	1,860人	1,985人	106.7%	20人	30人
生命環境 科学域	339人	345人	101.8%	1,436人	1,503人	104.7%	-人	-人
地域保健学域	255人	260人	102.0%	1,036人	1,073人	103.6%	3人	3人
合計	1,369人	1,402人	102.4%	5,612人	5,948人	106.0%	23人	33人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
現代システム 科学域	286人 (100%)	45人 (15.7%)	213人 (74.5%)	28人 (9.8%)
工学域	461人 (100%)	405人 (87.9%)	47人 (10.2%)	9人 (2.0%)
生命環境 科学域	313人 (100%)	193人 (61.7%)	110人 (35.1%)	10人 (3.2%)
地域保健学域	260人 (100%)	19人 (7.3%)	232人 (89.2%)	9人 (3.5%)
合計	1,320人 (100%)	662人 (50.2%)	602人 (45.6%)	56人 (4.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
現代システム 科学域	315人 (100%)	253人 (80.3%)	54人 (17.1%)	8人 (2.5%)	0人 (0.0%)
工学域	490人 (100%)	409人 (83.5%)	51人 (10.4%)	30人 (6.1%)	0人 (0.0%)
生命環境 科学域	318人 (100%)	285人 (89.6%)	25人 (7.9%)	8人 (2.5%)	0人 (0.0%)
地域保健学域	259人 (100%)	234人 (90.3%)	20人 (7.7%)	5人 (1.9%)	0人 (0.0%)
合計	1,382人 (100%)	1,181人 (85.5%)	150人 (10.9%)	51人 (3.7%)	0人 (0.0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>シラバスでは、授業名、担当教員名、授業の目的・到達目標、各回の授業内容、成績評価方法、成績評価基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等の情報を示し、Web サイトを通じて公開している。</p> <p>http://www0.osakafu-u.ac.jp/syllabus/</p> <p>年度の授業の計画については、各学域・学類の履修要項で公開している。</p> <p>https://www.osakafu-u.ac.jp/campus_life/course/curriculum/</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
各授業の学修成果に係る評価の基準はシラバスに明示している。 http://www0.osakafu-u.ac.jp/syllabus/ 卒業及び修了の認定に関する基準は、学則及び各学域規程に定めている。 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/education/regulation/				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
現代システム科学域	知識情報システム学類	132 単位	有	1年間で50 単位、 1年前期は24 単位
	環境システム学類	132 単位	有	1年間で50 単位、 1年前期は24 単位
	マネジメント学類	132 単位	有	1年間で50 単位、 1年前期は24 単位
工学域	電気電子系学類	128 単位	有	1年間で50 単位、 1年前期は24 単位
	物質化学系学類	128 単位	有	1年間で50 単位、 1年前期は24 単位
	機械系学類	128 単位	有	1年間で50 単位、 1年前期は24 単位
生命環境科学域	獣医学	219 単位	有	1年間で50 単位、 1年前期は24 単位
	応用生命科学類	132 単位	有	1年間で50 単位、 1年前期は24 単位
	緑地環境科学類	132 単位	有	1年間で50 単位、 1年前期は24 単位
	理学類・自然科学類	132 単位	有	1年間で50 単位、 1年前期は24 単位
地域保健学域	看護学類	128単位	有	1年間で50 単位、 1年前期は24 単位
	総合リハビリテーション学類 理学療法学専攻	132単位	有	1年間で50 単位、 1年前期は24 単位
	総合リハビリテーション学類 作業療法学専攻	132単位	有	1年間で50 単位、 1年前期は24 単位
	総合リハビリテーション学類 栄養療法学専攻	133単位	有	1年間で50 単位、 1年前期は24 単位
	教育福祉学類	129単位	有	1年間で50 単位、 1年前期は24 単位
	G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法： https://www.osakafu-u.ac.jp/campus_life/course/score/ G P Aを履修指導や学習支援の他、成績優秀者の決定や課程配属の際の要件として活用している。	
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： https://www.fd-center.osakafu-u.ac.jp/partnership/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<http://www.osakafu-u.ac.jp/info/campus/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名 学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
現代システム科学域 工学域 生命環境科学域 地域保健学域	535,800 円	大阪府内 282,000 円 大阪府外 382,000 円	185,000 円 (生命環境科学域 獣医学類のみ)	【その他欄内訳】 実験機器充実負担金 85,000 円(年額) 実習充実負担金 100,000 円(年額)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 経済支援及び修学上の支援に関し、以下の取り組みを行っている。・「国の高等教育の修学支援新制度」及び大阪府の「大阪府立大学・大阪市立大学等授業料等支援制度」に基づき経済支援を行っているほか、上記制度の「大学等への入学時期等に関する要件」「在留資格等に関する要件」を満たさないため対象外となっている学生のうち学業優秀かつやむを得ない事情により授業料納付が困難な学生に対する大学独自の授業料減免制度・大学独自の奨学金制度・学生の相談に応じ助言を行うため、各学域にアドバイザー教員を配置する学生アドバイザー制度・外国人留学生を対象に、本学が委嘱したチューターが学修・研究・生活について個別の指導・助言を行うチューター制度・障がいや性的指向・性自認等に関して支援を必要とする学生の相談に応じ支援者の派遣や調整を行うアクセスセンターの設置
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 学生課キャリア支援室に国家資格キャリアコンサルタントを3名常駐配置し、自己実現のための進路選択や社会参加のためのキャリアカウンセリング体制を整備している。また、長期安定した職業選択に必要な職業理解促進のためのインターンシップ情報や求人情報の発信体制とガイダンスやセミナー開催の取り組みを実施している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生相談室(カウンセリングルーム)を配置し、臨床心理士によるカウンセリングを実施。メールやTV電話での相談にも対応。また、学校医や保健室において、学生の健康相談も実施している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<http://www.osakafu-u.ac.jp/info/education/>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	大阪府立大学
設置者名	公立大学法人大阪

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		468人	463人	931人
内 訳	第Ⅰ区分	259人	262人	
	第Ⅱ区分	128人	133人	
	第Ⅲ区分	81人	68人	
家計急変による支援対象者（年間）				12人
合計（年間）				943人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科 を含む。）及び専門学校（修 業年限が2年以下のものに限 る。）		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了 できないことが確定	4人	人	人
修得単位数が標準単位数 の5割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時 間数が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他 学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に 連続して該当	0人	人	人
計	4人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科 を含む。）及び専門学校（修 業年限が2年以下のものに限 る。）					
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）
の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給
付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより
認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準時間数の6割以下)	1人	人	人
GPA等が下位4分の1	73人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	3人	人	人
計	73人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F127210107887
学校名	大阪府立大学
設置者名	公立大学法人大阪

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		468人	463人	931人
内 訳	第Ⅰ区分	259人	262人	
	第Ⅱ区分	128人	133人	
	第Ⅲ区分	81人	68人	
家計急変による支援対象者（年間）				12人
合計（年間）				943人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	4人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準時間数の5割以下）	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	4人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	1人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	1人		
GPA等が下位4分の1	73人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	3人		
計	73人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。